CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS
宗教センターだより

幼稚園より

卒園礼拝
3/11 月
説教　塩谷直也（大学宗教主任）

終業礼拝
3/14 木

卒園式
3/15 金　10:00〜

始業礼拝
4/ 8 月

入園式
4/11 木　10:00〜

イースター礼拝
4/12 金

母の日礼拝
5/10 金

（教諭　多々内 三恵子）

初等部より

初等部チャペルコンサート
2/28 木　15:40〜16:30　初等部米山記念礼拝堂
ハンドベルクワイア、聖歌隊、トランペット鼓隊

卒業礼拝（6年生のみ）
3/11 月　9:10〜9:40　初等部米山記念礼拝堂
説教　小澤 淳一（初等部宗教主任）

6年生を送る礼拝
3/15 金　8:25〜8:50　初等部米山記念礼拝堂
奨励　馬越　嶺（初等部教諭）

フィリピン訪問プログラム
3/21 木 − 27 水
訪問先：ルソン島、パナイ島、ギマラス島

イースター特別祈祷会
4/ 9 火 − 12 金　8:00〜8:15　初等部米山記念礼拝堂

イースター礼拝
4/12 金　8:25〜8:50　初等部米山記念礼拝堂

お母さんへの感謝の集い
5/15 水　11:00〜12:00　青山学院講堂

（宗教主任　小澤 淳一）

中等部より

卒業礼拝
3/13 水
講師　深町 正信
（和泉短期大学理事長、青山学院名誉院長）

CF（クリスチャン・フェローシップ）活動
4/ 6 土　校内清掃奉仕活動

春の教職員修養会
4/ 8 月　13:30〜15:00
講師　湊　晶子（前東京女子大学学長）

新入生オリエンテーションキャンプ
4/11 木 − 13 土

イースター礼拝
4/23 火　9:20〜10:30　青山学院講堂

母の日・家族への感謝の日礼拝
5/14 火　10:20〜12:00　青山学院講堂
講師　松谷 祐三
（日本基督教団麻布南部坂教会伝道師）

（宗教主任　西田 恵一郎）

表紙写真
高等部PS講堂での礼拝

イースターに関して

安かれ　ヨハネによる福音書　第20章19-23節

相良 昌彦
高等部宗教主任

ペテロとヨハネは道を急ぎます。慕い続けた主イエスの墓のあるところへと。その表情にあるのは真剣な想い。若いヨハネは手を胸の前に合わせ祈るよう。その視線は遠くへ向かいます。ペテロの表情は張りつめています。その目は何かを必死にとらえようとしているようでいて、しかし目の前の何ものにも焦点を結んでいないようです。この時ペテロの胸中を過るのはいかなる想いでしょうか。口を極めて三度も主を知らないと言い切ったペテロ。そのまま十字架上で主イエスは亡くなられました。主を裏切ってしまった。その苦く、痛みを伴う記憶が今、どうしようもない力として彼を突き動かし、主の墓へと急がしています。

これはEugene Burnandによる絵画、「復活の朝に墓へと走る弟子ペテロとヨハネ」。ヨハネによる福音書20章から描かれる十字架で主を失った弟子たちの姿です。二人が懸命に先を急ぐその理由は、主が墓には見当たらないという心を掻き回される知らせゆえでした。理解しようのない知らせ。何を求めているのかもわからず、途方に暮れたまま走り出した二人でした。墓に到着。その場で与えられたのは答えではなく、さらなる不思議でした。主はそこにはおられなかった。あるのは空の墓。何のために自分たちは走ってきたのか。混乱のただ中にいるこの彼らの姿に、必死に主の場所へと近づこうとしたその姿に、私たちは思わず己の姿を重ねて見るのではないでしょうか。いったいこの私に何が告げられようとしているのか。私たちのいかなる知恵も、経験も養いも、空の墓の不思議への私たちの理解の助けにはなりません。しかし、この私たちには、確かに主ご自身が、自ら現れ、語りかけ、答えをくださるのです。

イースターの朝が明けた後、混乱と恐れに扉に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちのただ中に主は来てくださいました。「あなたがたに平和があるように」。口語訳の聖書では「安かれ」です。幸いな響きではないでしょうか。私はここにいる。あなたがたと共にいる。主のこの御言葉は、現代に生きる私たちに今向けられています。思うのです。このイースターに満ち満ちる主の救いの御業の不思議さにこそ力与えられる者でありたいと。私たちが心の扉を閉ざしていても、私たちがそれぞれいるところへと主は近く来られ、声をかけてくださるのですから。私たちは決して一人ではないのです。

クリスマスの夜を思い起こします。主なる神の御心を誰もが知らなかったあの夜、幼子はお生まれになりました。人となられた神の子が十字架につくために。私たちが代価を支払われ生かされるために。この御業を実現される主なる神の慈しみが、私たちの命です。私たちは、神の目に一人一人かけがえのない存在であり尊いのです。主のこのような恵みに触れるとき、私たちにとって主イエスの御姿が新たになります。主がどのように一人一人に御言葉を語られたのか。どのように人々を見つめ、人々の肩に、その背に御手を置かれ癒されたのかが。私たちも今、主によって癒され、慰めを得、新たに自分の足で、それぞれ道を歩む者とされるのです。ハッピー、イースター。主よ、ありがとうございます。あなたがわたしを取り戻し、生かしてくださいます。

海外キリスト教事情

グラッド・ポスク！（スウェーデン語で「復活祭、おめでとう！」）

野村 祐之
大学・女子短期大学　非常勤講師

スウェーデン、ダーラナ地方の教会で迎えたイースターの想い出です。ルター派の国、スウェーデンの復活祭（ポスク）は国民的休日で、春分過ぎ、受難週の木曜から翌月曜日まで五日間に渡ります。木曜日の夕拝は「最後の晩餐」を記念するミサ。弟子の足を洗ったキリストに倣い、牧師さんが礼拝の中で足を洗ってくれます。

翌日は受難の金曜日。キリストが亡くなった午後3時、チャペルの十字架が床に降ろされ、それを囲んでの黙想と祈りの時が守られます。これは夜を徹して続けられ、翌土曜日の夜中近くにまで及びます。

この間、断食する人もいますが、食堂にはパンとチーズ、りんごと水が準備されていて自由に食べることができます。テーブルの花瓶には黄色い羽を飾った白樺の枝がさしてあります。（写真）

キッチンを覗くと高校生たちがゆで卵をカラフルに染めていました。女の子に「春が来るの見たい?」と聞かれ、うなずくと白樺の枝先をキャンドルにかざします。プチッと弾けて薄緑の芽が開くと「ほら小ちゃな春」と顔をほころばせました。

キッチンのドアが開き、お婆ちゃん姿の赤いほっぺの女の子が現れました。小春ちゃんがキャンディを手渡しながら、こう教えてくれました。

「魔女たちよ。今日はキリストが陰府に下った日。これ幸いと小さな魔女が出歩くの」。

聖土曜日の夜がふける頃、大礼拝堂には続々と街の人々が集まって来ました。中世の石造りの教会堂はキャンドルを手にする人で満席です。お喋りする人は誰もいません。明かりが消され、聖堂は暗黒のしじまに包まれました。

真夜中0時。鳴り渡る鐘が新しい日の到来を告げます。聖堂の暗闇に一条の光が輝きました。「主は〜よみがえられた〜」との声と共に、輝く火の柱のようにキャンドルが祭壇へ進みます。「世の光、キリストは〜よみがえられた〜！」。

祭壇から会衆へと灯が広がる中、天井に目をやると大きなキリストが手を伸べて見守る姿が揺らめく光に浮かびます。

トランペットが鳴り響き「ハレルヤ」の歌と共に牧師さんが出口へ向かうと人々が数珠つながりに続きます。その行列は聖堂を出て隣の墓地へと向かいます。

満月後すぐの月明かりに照らされて白い式服の牧師さんがチョウのように舞い、キリストが初穂として復活された喜びの知らせを、永眠する人たちに告げて廻ります。

ポスクは主の復活の記念日。教会が毎週日曜日の朝、「主日礼拝」を守るその原点が復活祭にあったのです。

グラッド・ポスク！　復活祭、おめでとう！

撮影・野村祐香

シリーズ 地の塩、世の光　file 15　◉各界で活躍するクリスチャン

ハレルヤ。
わたしたちの神をほめ歌うのは いかに喜ばしく
神への賛美は いかに美しく 快いことか。

147:1 Psalm
詩編　147編 1節

高浪 晋一
日本賛美歌学会会長、日本基督教団讃美歌委員、
元国立音楽大学准教授

賛美の喜びをともに

詩編102編19節にもあるように、私たちは、神さまを賛美するために創造されました。祈りを合わせて賛美するとき、歌うことによってしか生まれない神さまとの霊的交わりが生まれます。そして、一人より二人、二人よりも十人、十人よりもみんなで声と息をあわせて歌うとき、神さまがくださった「音（倍音）」はより豊かに響き、賛美のよろこびは、ずっとずっと大きくなり、神さまとの霊的交わりは、より確かなものになります。“賛美すること”は私たちの礼拝、信仰生活にとってかけがえのない神さまからのプレゼントなのです。

特別な場合だけでなく、生活や信仰のいろいろな場で、みんなで息を合わせて歌い、その喜びを分かちあうことの大切さを、私は、音大の学生だったとき、また教員時代を通して実感してきました。「歌うことの上手・下手、自信のある・なし」が問題なのではありません。神さまはいつも、私たちの賛美のすべてを見守り、受け入れてくださっています。体をラクにして、はずかしがらずに、口をしっかりと開け、深くいっぱいに呼吸をし、同じ気持ちを持った仲間と息を合わせて、心を込めて神さまに向かって賛美のうたを歌うとき、言葉では説明できない喜びが私たちの中に生まれるのです。

このことを多くの人にお伝えし共有できればと、ライフワークのひとつとして、各地の学校や教会、地区の講習会にお招きいただき、「賛美のとき（歌唱指導）」をご一緒させていただく活動をしていますが、私自身がこの活動から、多くのことを学び、活力をいただいております。青山学院に、2011年10月の『讃美歌21講習会』、昨年2012年5月チャペルウィークの講師としてお招きいただいた際にも、多くの学生さんたちが、力強く心を込めて賛美されている様子に深い感銘を受け、大きな力をいただきました。その賛美の歌声は確実に神さまのもとへ届いていたと確信しています。

私が音楽と出会い、これまでに積み重ねてきたことは、この活動に結びついていたように思います。すべては神さまのご計画であったのだと思わずにはいられません。少しでも多くの方々と賛美の喜びを分かちあう時間が与えられ、共に声高く神さまを誉め歌うことができるよう、自分自身もさらに学びを深めつつ、これからもこの活動を続けていきたいと思っています。

さあ、みなさんも、臆することなく、心を込めて、声を合わせて、神さまに向かって賛美のうたを共に歌いましょう！

The Salt of the Earth, The Light of the World

シリーズ・私の教会　file 64　Japan Baptist Convention　Kawasaki Baptist Church

日本バプテスト連盟 川崎バプテスト教会

榎本 美枝
本部　宗教センター事務室

私の所属する川崎バプテスト教会は、長靴のような細長い地形をした川崎市内を縦断する、JR南武線の武蔵新城駅から徒歩2分、東京と横浜のビッグタウンに挟まれた川崎市のほぼ中央にあります。

川崎バプテスト教会は2012年に創立50周年を迎えました。記念すべき第1回主日礼拝は、1958年新城浴場会館にて5人で行われました。1962年大井バプテスト教会川崎伝道所から、川崎バプテスト教会が誕生しました。開拓伝道からわずか4年で教会組織ができたことは、当時の教会員が伝道意欲に燃え、一丸となって「全日本にキリストの光を」という日本バプテスト連盟のビジョンを掲げていたことを物語っています。

1965年には「ひかり園」という幼稚園が併設され、1984年までの19年間、地域の子ども達を通してキリストの香りを放ち続け、多くの在園児、卒園児が日曜日の教会学校へ通っていました。平日は幼稚園、日曜日は園舎を教会学校の教室として利用し、園庭は教会員の駐車場となりフル活動していました。

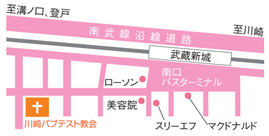
その後、主の恵みのもと新会堂が与えられ、1992年新会堂献堂式を執り行い現在に至っています。バプテスト教会は、バプテストリーという洗礼（バプテスマ）を受けるための浴槽が壇上に備わっているのが特徴の1つです。私たちの教会もバプテストリーが壇上の正面にあり、毎週100名近い礼拝出席者が集っています。

現在の伊藤光雄先生は5代目にあたり、いつも笑顔で明るく話しかけてくださり、教会出席者へ元気と勇気をくださる牧師です。初代牧師の伊藤隆夫先生の御子息であり、このことは我々教会員にとって、大変感慨深い信仰の継承、そして素晴らしい神の御計画と思わずにはいられません。

主日礼拝の前には10時から全年齢層の教会学校が年齢ごとにわかれて行われます。どのクラスも同じ聖書箇所を学ぶため、幼稚科と小学科にそれぞれ出席している我が子と、「今日の聖書のお話はどうだった?」などと会話をするのも楽しみの1つです。主日礼拝は11時からと18時半からの2回行われ、多くの方々が礼拝に出席できるよう配慮しています。また、子どもから高齢者の方々すべての人が教会に集うことができるように、礼拝中ナースリールームで就学前の子どもを預かったり、教会の車で高齢者を送迎したり、礼拝堂内で手話通訳をしたりしています。礼拝で心が満たされた後は壮年会や女性会の奉仕による昼食の用意があり、カレーライスやおうどんを食べて、和やかな雰囲気の中でお腹も満たされます。

このように私たちの教会は、教会員一人ひとりが神から頂いた賜物を生かし、神の家族としてお互いを支え合っています。

JR南武線武蔵新城駅より徒歩2分
〒211-0044　川崎市中原区新城5-8-27
電話：044-777-1795　Fax：044-799-7517
ホームページ：http://homepage3.nifty.com/kawasakibc/framepage1.html
E-mail：kawasakibc@mh.point.ne.jp



CHRISTIAN BOOKS & CDs　シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

『みんなの聖書 絵本シリーズ』（36巻セット）

文：日本聖書協会　絵：藤本四郎（旧約）、杉田幸子（新約）
日本聖書協会　2008年4月〜2011年3月

田中 和美
初等部教諭

「むかし、むかし、そのむかし。今から2千年も前のことでした。ナザレの町に、イエスという人がいました。イエスさまは、ある日…。」

これは、私が子どもの頃、通っていた小学校の「聖書」を教えてくださっていたチャプレンが、発見の始めにおっしゃっていたフレーズです。この言葉の後には、イエス様の御業やたとえ話が続きました。独特なリズムで唱えられた冒頭の言葉を聞いた後、聖書の世界にどっぷりとはまっていく…そんな授業が展開されました。

今年度、私が学級担任をしている3年生の子ども達も同じようです。宗教主任の小澤先生が展開する「宗教」の授業を楽しみにしています。毎日の礼拝で小澤先生の祈りに耳を傾け、先生からの説教を何っていても、子ども達は礼拝とは違う魅力を感じて、きらきらした目で先生がなさる聖書の話を聞いています。関心の高さが垣間見える瞬間です。

キリスト教が身近にある環境で育てば、聖書が身近にあることは必然です。でも、私は子どもの頃、聖書は特別な読み物だと感じていました。何よりもその厚み、そして、児童文学とは異なる独特の言い回しによってそう感じていたのかもしれません。「礼拝で読む聖書は、特別なもの。授業で開く聖書は、身近なもの」。子どもの中にそんな棲み分けがあるとしたら、子どもと聖書を繋ぐためには、大人以上に「仲立ち」が必要なのです。

日本聖書協会が出版している『みんなの聖書絵本シリーズ』は、良い「仲立ち」の一つになると思います。やさしく分かりやすい言葉で、聖書のことが書かれた絵本です。全36巻のこのシリーズは、旧約聖書と新約聖書が交互に紹介されています。また、少し大きくなったら、もしくは読み聞かせをする大人に役立つように、巻末に解説ページや新共同訳聖書の箇所の参照ページがついています。

学級の子ども達にすすめてみたところ、喜んで手にとってくれました。そして、読後の感想の多くに「おどろいた」「すごい」という言葉、そして沢山の「発見」が出てきました。対象はお話によって異なりますが、どれも神様の御計画やイエス様の御業であることに、子ども達は少しずつ気づいているようです。子ども達に特に人気があったのは、イエス様の奇跡が描かれた『カナのけっこんしき〜お母さんのしんぱい』（4巻）『五つのパンと二ひきの魚』（16巻）、旧約聖書のヨナ書を描いた『魚にのみこまれたヨナ』（17巻）エステル記を描いた『エステル〜勇気あるおささささま』（23巻）でした。これらの絵本を読んでから、改めて聖書を読み直した子もいます。

子ども達と聖書を繋ぐ良い「仲立ち」の手立てとして、このシリーズを大切に紹介していこうと思っています。

編集後記

今年のイースターは3月31日です。旧（ふる）い年度をイースターで送り、新しい年度の最初の週をイースターで迎える。復活の主は常に共にいてくださいます。変化が求められる時代、後退や放棄の思いに駆られた時、「変えることのできるものと、変えることのできないものと、そのどちらかを識別する知恵」（R・ニーバーの“The Serenity Prayer”の一部）を求めつつ、生きておられる主に訊きながら歩んでゆきましょう。

（中等部宗教主任　西田 恵一郎）

Wesley Hall News　第111号
2013年3月1日発行
発行　青山学院宗教センター　学院宗教部長　嶋田 順好
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）
〈URL〉http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html
〈E-mail〉agcac@aoyamagakuin.jp
編集　ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷　株式会社 万金社

説教

冷たいか熱いか、どちらかであってほしい

ヨハネの黙示録　第3章14〜16節

大島　力

大学宗教主任

ヨハネの黙示録という書物は、新約聖書冒頭の福音書などと比べると、読みにくく難しいと思い、敬遠する人がいるかも知れません。確かに、いろいろな謎めいた幻や、象徴的な言葉が多く出てきます。しかし、ヨハネ黙示録は、少し読み進めると、非常に面白く、また現代的なメッセージが多く含まれている書物であることが分かります。

主イエスからの手紙

最初の1章から2章までは、七つの教会への手紙の形をとっています。その発信人は、主イエス・キリストです。復活の主イエスが天から、地上の教会に手紙を書き送っているという形式をとっています。そして、その教会は現実に小アジアの西側に存在していた教会です。エフェソの教会からはじまり、3章後半のラオディキアの教会で終わっています。時代は紀元1世紀の後半、キリスト教会がローマ帝国の迫害に苦しんでいた時代に書かれたと言われています。但し、そのような特殊な状況に置かれた教会やクリスチャンのみならず、今に生きる教会に直接語り掛けられているような具体性と迫力をもっています。特に3章14節からのラオディキアの教会に宛てられた手紙は、私たちの信仰生活にいくつかの鋭い問いかけをしてくる典型的な箇所です。

「ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。『わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。熱くもなく冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている』」(3:14-16)。これは、主イエスからわたしたちに向けられた言葉です。

熱いことと冷たいこと

私たちの信仰の生活、あるいは信仰を求める生活は、現在、熱いものでしょうか。冷たいものでしょうか。それとも、なまぬるいものになってしまっているのでしょうか。ここで、熱いということは、分かりやすいことです。例えば、最初に洗礼を受けた時に比べると、その信仰生活の熱心さはさめているように感ずるということはあります。このヨハネの黙示録の2章のエフェソの教会に宛てた手紙では「あなたは最初の愛から離れてしまった」という言葉があります。最初の愛、つまり、最初にイエス・キリストの神に触れて、自分は愛されていると感じて、その愛を受け入れた。しかし、今、その愛から離れているのではないか、と問われることがあります。私たちの熱心さはさめやすいものです。

また、次の「冷たい」ということは、ここでは信仰の熱心さがさめているという否定的な意味ではありません。そうではなく、様々な困難や熱狂的な雰囲気のなかにあっても、信仰に基づいて冷静な判断をし、目覚めているという意味だと思います。やはり、2章のエフェソの教会に宛てた手紙の中では、「わたしは、あなたの行いと労苦と忍耐を知っている、…あなたはよく忍耐して、わたしの名のために我慢し、疲れ果てることがなかった」(2:2,3)という評価が与えられています。これは、信仰に基づく冷静さ、忍耐強さということです。そのことが3章では「冷たい飲み水」に譬えられています。苦難にあった時に、もうこれで終わりだと、性急に判断せず、むしろ冷静になってその苦難を、忍耐をもって耐える。すると、パウロの言うように「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」(ローマの信徒への手紙5章)という希望の連鎖に導かれます。そのような信仰に基づく冷静な判断ということが問われることがあります。

そのなかで、主イエスはこう言われているのです。「冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」。これは、大変に厳しい、ある意味で深刻な事態です。私たちはこの主イエスの言葉に果たして耐えられるでしょうか。

なまぬるさを脱して

冬の寒い時には、温かい、あるいは熱い飲み物が私たちの口と喉、そして心を癒してくれます。「ああ、これはおいしい。暖まる。ほっとする」と私たちは言います。また、逆に、暑い夏の日に、冷たい水を一杯飲むならば、本当に生き返るような思いになります。「ああ、おいしい。喉が潤った。生き返る」と言います。しかし、それが、もしなまぬるい水であったら、そんな気持ちにはなりません。ですから、主イエスは「わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」と言われるのです。ここで、なまぬるいという判断はすでに下されています。しかし、まだ吐き出されてはいないのです。ここを読む限り、私たちが信仰生活の温度を変える可能性は残されています。その変化を期待して、主イエスは私たちに語りかけておられるのです。「冷たいか熱いか、どちらかであってほしい」。

特集　卒業、門出の一歩

思い出がいっぱいの学園生活も、あとわずか。
次のステージに向けて新しい一歩を踏み出す思いを、各部の方にききました。

Special issue : Graduate, The steps of departure

新しい友達に伝えていくこと

江口 麻里
幼稚園保護者会会長

我が家では高3の長女を頭に三人の子供が幼稚園にお世話になった。上が18歳にもなっていると、あれもこれもお稽古してみてもあまり有効でないこと(あくまで我が家に関して)が身に染みてくる。そこで三人目は、なるべくしなくてはならない事が少ないように育てたいと思った(親もその方が面倒でないというのも大きな理由だが)。好きなように過ごせる時間は、幼児の特権であるし、豊かな時間だと思ったからだ。

幼稚園には、子どもにとって意欲的に遊び続ける豊かな時間が流れている。保護者も保育に携わり、その場を共にすることを許してくださる。折々の礼拝を一緒に守り、保護者が当番で園児達の会食の調理をし、フェスタでは子ども達のために長い時間をかけて手作りで準備を進める。日曜には教会学校に家族で通う。家族一丸となって、簡単ではない手間のかかる子育てをしていく。この積み重ねが子どもの心に、自分が愛されている、受け入れられている確かな存在なのだと感じさせることとなる。信じられない事が次々と巻き起こる世の中にあって、自分を信じられることほど、人を強く立たせることはないだろう。私はこうして日々必死に子どもにしてあげているつもりになっていたが、実は私が子どもからまっすぐに愛されて、信頼されて、許されているのだ。子どもが私の存在を無条件に認めてくれていることで癒されている。神様にしっかりと心を向けて祈るのは子どもにとってはたやすくて、むしろ大人の私は子どもに引っ張ってもらっている。子どもと守る礼拝の清々しいこと。子ども達が無邪気に楽しく歌う讃美歌に自然と涙が溢れてくる。

幼稚園から卒園するメンバーは40名。この40名は「地の塩、世の光」というスクールモットーに導かれて集まり、青山学院の最初の核となる存在だ。初等部、中等部、高等部、大学と新たな仲間が加わったときに、最初の核が互いを認め合う良い関係に育っていれば、その先も更に各人が充実した成長を遂げられることと思う。長女は「青山学院大学に進学するにあたり私がしたいと思う事は、外部から入学してくる友達に青山学院におけるキリスト教の存在意義を少しでも伝えることです。なぜなら、キリスト教は学校の根本ですし、何より私は幼稚園からこの学校に通っているので誰よりもお手本になりたいからです。」と書いていた。卒園する40名も、幼稚園が丁寧に丁寧に伝えてくださった精神を、新しい友達にどのように伝えていくのか楽しみでたまらない。

当たり前への感謝

竹村 環希
初等部6年

6年間、青山学院初等部で過ごしてきて、私は1年生の時から清里や雪の学校で冬に黒姫等の宿泊行事に参加するのは、全て当たり前だと思っていた。けれどもその当たり前だと思っていた全てが当たり前ではなかった。その事に気付いたきっかけがひとつある。それは、5年生の春休みに参加したフィリピン訪問プロジェクトだ。

最初は少し旅行気分なところもあった。けれど、いざフィリピンに行ってみると、そんな気分も消えてしまった。フィリピンに行った中で一番印象に残ったのは、ダスマリニアスという地域だ。この地域は、フィリピンの中でも特に貧しい地域で、子供が学校に通えるだけでもまだ裕福な方だ。中には、学校に通わず、家族のために働く子供もいる。私はこのダスマリニアスの地で、自分がどんなに裕福であるかを強く感じさせられた。私と同い年なのに、こんなにも貧富の差があるのかと感じた。だから、他の人も自分の生活が当たり前であると、思わないでほしい。私たちの生活は、フィリピンや他の貧困に苦しんでいる国から見れば、とても裕福なのだ。

私は、フィリピンに行ったことにより今の自分の生活が当たり前ではないことを知り、感謝するようになった。だから、他の人にも、この当たり前のように今の生活ができることを神様に感謝してほしい。私も、これからも神様に感謝して中等部でも過ごしていきたいと思う。

聖句の不思議な力

松原 響佑
初等部6年

もうあと少しで、初等部も卒業です。この6年間の事について考えてみると、1年生のなかよしキャンプから始まり、2年生の農漁村の生活、3年生と4年生の山の生活、5年生の海の生活、6年生の洋上小学校など、様々な行事がある中、共通して言えることがあります。それはどんな行事にも主題聖句が必ずあるということです。

海の生活での主題聖句の「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(コリントの信徒への手紙 一 10章13節)は、遠泳というとても辛い試練であっても、神様はいつでも共にいてくれるということです。神様が共にいてくれることを感じて、僕は遠泳を乗りこえました。僕は主題聖句と一緒に初等部の行事を乗りこえていきました。

聖句は困難な事に会った時や辛い時、自分を導いてくれている気がします。僕は、これから卒業してしまうけれど、今までの6年間の色々な聖句の事を、すぐに忘れてしまわずに、これからも色々な事があった時、聖句や行事で学んだ事を活かして、乗りこえていきたいです。僕がこの初等部で学んだ事は、大きくなって大人になっても忘れないと思います。

御言葉との出会い

佐藤 辰哉
中等部3年

「からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」(マタイ17章20節)この聖句は1年生の時に聖書科の課題で教会での説教をレポートするために、教会へ行ったとき、その日の主題聖句でした。聖ヶ丘教会に通っていたので、当時牧師をなさっていた山北院長がお話してくださいました。1年生の僕には説教は難しくいつも集中力が切れてしまうので、レポートを書くためにその日は説教のCDを購入して家で何回も聴きました。何度も聴いているうちに少しずつ意味が分かり、純粋に神を信じるという、その御言葉の深さに感銘を受けました。そして、この聖句に導かれて1年生のクリスマスに受洗しました。

3年生になると所属するラグビー部の練習が厳しくなり、勉強との両立が大変になってきましたが、聖句の一節が支えとなりました。「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される。」(箴言27章17節)これはラグビー部の顧問の先生に教えていただいた聖句です。ラグビーはとてもきついスポーツです。だからこそチームメイトとの絆や団結力がとても大事です。合宿や日々の厳しい練習などをチームメイトと一緒に乗り越えたからこそかけがえのない思い出となり、自分自身の心の成長も出来たのだと思います。

この3年間を振り返ると聖書の授業や日毎の礼拝、部活などの学校生活を通して出会った聖句が僕を強くし、この中等部での生活を豊かにしてくれたのではないかと思います。

高校に進学して様々な事に挑戦する中で試練は必ず訪れると思いますが聖書の御言葉を胸に乗り越えていこうと思います。

高等部で得たもの

大塚 晴海
高等部3年

卒業を間近にして、私は今、高等部で過ごした3年間がどれだけ多くの面で、自分の性格や考え方、また生き方を変えてくれたかをひしひしと感じています。

私を変えてくれたもの。その一つは、今まで読んだことのなかった聖書に触れたこと、そして毎日の礼拝でお話を聞き、祈ったことでした。3年生の冬に参加したホワイトキャンプは、私の高校生活のひとつの締めくくりのようなものになりました。そこでの礼拝で心に残った言葉があります。それは「私達が母親のお腹にいた時、まだ知らない外の世界で父と母が私達を愛してくれていたように、今、私達は自分達が知らないどこかから神様に愛されているのだ」というものです。これを聞いて私は、それまで漠然としていた“愛”というものがとても身近にあるのだと思うようになりました。

二つ目に私を変えたのは、親友との出会いです。彼女とは嬉しい事も悲しい事もどんな事でも話せます。そして何よりお互いの悪いところを指摘し、言い合うことのできる仲です。彼女に出会うまでの私は、相手を傷つけてしまうのではないかなど考えすぎてしまい、人に自分の思っていることをはっきり言えない人間でした。しかし、彼女と出会い、関わりあう中で気がつきました。注意や指摘を相手に対して愛を持ってすれば、何も恐れる必要はないのではないか、そしてそれは私達が神様から愛されていることとも関係があるのではないかということに。

卒業を目前にした今、私にははっきりとした将来の夢があります。それは、臨床心理士になることです。言葉や見た目、表情からは判断のできない人の心を理解し、悩みを抱える人、傷ついている人などを支えることのできる人間になる事です。そのためには、知識や経験はもちろん必要ですが、何よりも愛をもって人と接することが大切です。私は、高等部で学んだ“愛”をいつも心に抱き、“愛”を実践していくことができるよう努力したいです。

素敵な勘違い

山川 弓佳
女子短期大学　子ども学科3年

私は、女子短期大学に入学し3年間ハンドベル・クワイアに所属して、礼拝での奉仕等を行ってきました。私がハンドベル・クワイアに入部しようと思った理由は、滋賀県の近江兄弟社学園高校からキリスト教学校同盟の推薦で入学し、宗教活動委員会所属である聖歌隊かハンドベル・クワイアのどちらかに絶対に入らなくてはいけないと「勘違い」をし、それならばと言う気持ちでハンドベル・クワイアに入部したのです。そんな「勘違い」で始めたハンドベルでしたが、今では卒業しても何らかの形でベルに関われないかと考えるくらい大好きです。

1年生のころは楽譜を読むことが遅く、苦手意識から練習に行くのが憂鬱な日もありました。けれど、先輩方が優しく愉快で、また自分でももっと上手になりたいと思い、楽譜に工夫をしたり、家で練習をしたりして、苦手意識はだんだんなくなりました。それでも先輩方には追い付けず、辞めたいと思うことも時々ありましたが、1年夏に大阪で行われたハンドベル世界大会に多くの方々のサポートを頂き参加することができたことがとても大きな経験でした。世界中からリンガーが集まり皆で1つの曲を演奏するマスリンギングに参加したり、世界各国代表の演奏を聞くことにより、ハンドベルの豊かな魅力に引き込まれました。

ハンドベル・クワイアは短期大学の礼拝、始業礼拝、クリスマス礼拝、卒業礼拝等、様々な礼拝に参加し、演奏の奉仕をします。礼拝奉仕はいつも間違えずに演奏ができるかと緊張しましたが、いつも一生懸命演奏しました。この奉仕をとおして神さまを讃美することができたことをうれしく思っています。

短大生活では、ハンドベル以外でもディズニーランド、シーに何度も行ったりなど、学生のうちにしか出来ないことも悔いなく存分に楽しみ、本当に充実した3年間を過ごすことができました。これからはできれば海外で学びを続けたいと思っています。学生生活の一番の思い出とお恵みは「勘違い」により入部したと思っていたハンドベル・クワイアに参加することができたことでした。

青山学院女子短期大学に入学したこと、そしてハンドベル・クワイアに入部できたこと、全て神さまに導かれたものだったと今思います。

神様の恵みと贈り物を忘れずに

大西 愛理
大学　国際政治経済学部4年

「命のある限り　恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り　生涯、そこにとどまるであろう」(詩編23編6節)。

私は大学生になって初めてミッションスクールに通うことになりました。大学生活での大きな変化は、聖書の授業や礼拝がある「神様が中心」にいる生活となったことです。私は高校3年生の12月に受洗したばかりで、大学に入学しました。神様の道を求める気持ちが最も強い時期でした。授業や礼拝を通して語られた御言葉は、幼い頃教会学校で聞いていた時よりも、神様の恵みを確信させてくれるものとなりました。特に「時宜にかなって美しい」という聖句は在学中に何度も耳にし、何事も結果を急ぐ私に、神の計画の存在を教えてくれました。

また入学と同時に私は青山キリスト教学生会(ACF)に入りました。ACFには約60名の学生が在籍しており、キリスト者もそうではない人もいます。若者のキリスト者が少ない日本社会においては、エネルギー溢れる非常に珍しい団体だと思います。ここで私が得た神様からの最大の贈り物は「信仰の友」です。彼らと話すと自分だけでは知り得なかった聖書による神様の姿を知ることができました。また、彼らの教会生活の姿に感化され、自分の所属教会の青年会も盛り上げようと思いました。普段はふざけあったり、冗談を言い合ったりするごく普通の学生ですが、いざというときに悩みを分かち合える心強い“信友”です。

特に、就職活動で行き先を見失い不安を抱えていた時に、電話口で祈ってくれる“信友”がいました。「苦しいときにこそ!」と言い、共に祈り合う仲間がいました。また、人知を超える力を持つ神様が共にいて下さることを再確認させ、安心させてくれた先輩方がいました。彼らは何物にも代え難い神様からの贈り物だと思います。彼らとの交友は生涯続くと思います。

大学卒業後は社会人になります。環境の大きな変化に悩みも出てくるでしょう。仕事の為、教会生活がこれまでのように守れない可能性もあります。しかし、学生時代に与えられた神の恵みと贈り物を忘れることなく、神の召しに応える神の民として社会で活躍したいと思います。神様、社会に一歩を踏み出す私達の足を強めて下さい。

CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS

宗教センターだより

高等部より

卒業礼拝
3/7木　9:15　青山学院講堂
奨励　渡辺　健(高等部教諭)

フィリピン訪問プログラム
3/21木–27水
訪問先:ルソン島、パナイ島、ギマラス島

イースター礼拝
4/10水　高等部PS講堂
説教　森島　豊(大学宗教主任)

ペンテコステ礼拝
5/20月　高等部PS講堂

(宗教主任　相良 昌彦)

女子短大より

卒業礼拝
3/21木　13:30〜　青山学院講堂
説教　シェロ マイク(学院宣教師)

キリスト教学校教育同盟校推薦入学生他歓迎会
4/2火　女子短期大学礼拝堂 他

始業礼拝
4/3水　10:00〜　青山学院講堂
説教　吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

宗教活動委員会ウェルカム・パーティー
4/12金　18:30〜　女子短期大学礼拝堂 他

チャペルウィーク
5/13月,15水,17金

ペンテコステ礼拝
5/20月　女子短期大学礼拝堂

(女子短期大学宗教活動センター)

大学より

オーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイ・プログラム
2/8金–3/2土

大学宗教委員研修会(公開講演会)
3/6水　10:00〜15:00
第19会議室(青山)
B738会議室〈テレビ会議システム〉(相模原)
「イスラームとの対話」
講師　内藤 正典
(同志社大学大学院グローバル スタディーズ研究科教授・研究科長)

フィリピン訪問プログラム
3/12火–21木

卒業礼拝
3/23土　9:00〜　ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教推薦入学生オリエンテーション
4/1月　9:00〜　ガウチャー記念礼拝堂他

キリスト教概論 I オリエンテーション
4/2火–4木　ガウチャー記念礼拝堂他

新入生歓迎礼拝
4/8月–12金
〈青　山〉ガウチャー記念礼拝堂
〈相模原〉ウェスレー・チャペル

チャペル・ウィーク
5/27月–31金
〈青　山〉ガウチャー記念礼拝堂
〈相模原〉ウェスレー・チャペル

宗教センターグループ活動
いずれの集会も自由に参加できます。

聖書に親しむ会
わかりやすく、楽しく聖書が学べます。
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考え合います。
(宗教委員、クリスチャン教員と宗教主任担当)

(宗教センター事務室　平野 修一)

本部より

教職員新学年度礼拝
4/4木　17:00〜　ガウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務室　平野 修一)